

2020年度 理論言語学講座 概要

時間：19：00－20：40（100分）

前期 2020年5月11日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）

	<p>ことばが伝える「意味」の性質に迫る 語の意味論</p> <p style="text-align: right;">松本 曜（まつもと・よう） 国立国語研究所教授 【意味論】</p>
講義概要	<p>本講義では、認知意味論と呼ばれる意味観にもとづいて、言語表現（主に単語）の意味について講義します。特にフレーム意味論（百科事典的意味論）と呼ばれる考え方を取り上げます。これは、言葉の意味が、私たちが世界について持っている様々な知識と密接に結びついているという意味理論で、アメリカの言語学者 Charles Fillmore が提唱したものです。この考え方に基づいた英語、日本語の表現意味分析について検討します。さらに、語の意味の拡張の性質や、動詞が参加する構文や複合語に関する制約、さらには反義性などの語と語の意味関係についても取り上げます。</p>
参考文献	<p>松本曜（編）『認知意味論』（大修館書店）、陳奕廷・松本曜『日本語語彙的複合動詞の意味と体系』（ひつじ書房）</p>
この科目で前提とされる知識など	<p>言語学の入門程度の知識を前提とします。</p>
プロフィール	<p>国立国語研究所理論対象研究領域教授 専門は、意味論、及び意味論と形態論、統語論、語用論、一般的認知とのインターフェース。主著に Complex predicates in Japanese (CSLI Publications)、編著に『移動表現の類型論』（くろしお出版）などがある。</p>
	<p>助動詞の多義の分析から文法の基本問題へ 日本語文法各論：モダリティ</p> <p style="text-align: right;">川村 大（かわむら・ふとし） 東京外国語大学教授 【言語学特殊講義】</p>
講義概要	<p>個別の文法現象についてやや深く掘り下げて考えることで、文法研究の様々な面白さに出会ってまいります。今年度は、「動詞+ウ・ヨウ、ダロウ、ハズダ、ベキダ、ヨウダ、ラシイ、カモシレナイ」等の諸形式をとりあげます。</p> <p>周知のようにこれらの形式は（広い意味での）「推量」や、「意志」「勧誘」「当為」「可能性」「必然性」といった意味を表し、今や「モダリティ（形式）」と呼ばれるのが普通になってきました。「モダリティ」は、現在の日本語文法の世界で</p>

月曜日		<p>はしばしば「話し手の何らかの態度」をめぐる意味だ、そういう意味での「主観的意味」のことだ、などと言われます。確かに「推量」「意志」「勧誘」などは「主観的意味」だと言って構わないでしょうが、だからといって上記の諸形式に「主観性表現の形式」というラベルを貼って良いでしょうか。ヨウダはどう考えても「主観的意味」を表すとは言えない例の方が圧倒的に目立ちます。ウ・ヨウは通常どこまでも話し手の態度のマークであると考えられていますが、「雨が降ろうと鍵が降ろうと」など、「主観的意味」を表しているとはいにくい例もあります。つまり、上記の諸形式は、「主観的意味」（としての“モダリティ”）を表すこともあるが、それだけを表す形式ではない、というべきもののようです。では、これらの形式は何をやっている形式なのでしょう、これらはどういう意味で「主観的意味の表現」なのでしょう。実は、上記の諸形式をめぐるのはこのほかにもかなり重要な問題がひかえているのですが、案外掘り下げて論じられることが少ないのです。個別形式における形と意味の関係（たとえば《動詞+ウ・ヨウ》の多義の問題）を丁寧に再検討することからはじめて、日本語文法では「モダリティ」という範疇をどのように定義したらよいか、ということまで、いくつかの指摘を行ないたいと思います。</p> <p>現代語の分析が中心になります。必要に応じて古典語の例も挙げますが、知識が無くてもついていける内容にします。日本語を専攻する人はもちろん、諸言語のモダリティ（と呼ばれる意味や形式）に関心のある他言語専攻の人、また、「文法化 grammaticalization」や認知意味論に関心のある人にも役立つ内容になるかと思えます。</p>
	テキスト・参考文献	<p>テキスト：ハンドアウトを配布します 参考文献：尾上圭介『文法と意味Ⅰ』（くろしお出版、2001）ほか。</p>
	この科目で前提とされる知識など	日本語学・言語学の入門程度の知識が必要である。古文の知識は前提としません。
	プロフィール	<p>東京外国語大学大学院教授 国語学（文法、文法論） 1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士（文学）。「マジの表す意味——ベシとの対比において——」（『日本研究教育年報』3号、1999）、「叙法と意味——古代語ベシの場合——」（『日本語学』21巻2号、2002）、『ラル形述語文の研究』（くろしお出版、2012）、「ベシ」「マイ/マジ」「マシ」ほか（『日本語文法事典』大修館書店、2014）、「打消の推量の助動詞」「推量の助動詞」ほか（『日本語大事典』朝倉書店、2014）など。</p>
火曜日	講義概要	<p>言語音の多様性の外延を捉えるために 音声学—調音音声学の実践的訓練</p> <p style="text-align: right;">中川裕（なかがわ・ひろし） 東京外国語大学教授 【音声学】</p> <p>この授業では、能動的な調音音声学的の実習をしながら、音声学の基礎を身につけることを目指します。実習はIPA (International Phonetic Alphabet)の枠組みをも</p>

	<p>とにして、世界の言語で音素的な区別に用いられている多様な単音の(1)聞き分け、(2)発音模倣、(3)模倣した発音の内省の技能練習をします。さらに、IPA で使われている記述のための用語と音韻論で使われている音韻特徴（弁別素性）の用語との対応についてわかりやすく解説をすることで、音声学と音韻論の橋渡しをします。</p> <p>この授業で取り扱う言語音は主として分節音で、最初に肺臓気流による子音、次に母音、最後に非肺臓気流による子音という順序で技能訓練を進めます。この授業を通して得た実践音声学的技能は、音声学・音韻論的な記述の正確な読解によって理論的な考察をするためにも、言語音の歴史的な変化についてよりよく理解するためにも、言語の現地調査を自分自身で実施するためにも、音声学・音韻論の応用的研究をするためにも、役に立つはずです。</p>
	<p>テキスト・参考文献 適宜プリントを配布します。</p>
	<p>この課目で前提とされる知識など 特にありません。</p>
	<p>プロフィール 東京外国語大学総合国際学研究院教授；PhD (Linguistics) 音声学、音韻論、音韻類型論、コイサン言語学 主要業績は下記のページをご覧ください。 https://researchmap.jp/read0158227/</p>
	<p>『「する」と「なる」の言語学』再訪 認知言語学Ⅱ 池上 嘉彦（いけがみ・よしひこ）昭和女子大学名誉教授 【認知言語学】内容は通年講座(11頁)を参照。</p>
	<p>言語獲得と言語理解の古典を現代的視点から再評価する 言語心理学の古典の再評価 大津 由紀雄（おおつ・ゆきお） 明海大学教授・慶應義塾大学名誉教授 【言語学特殊講義】</p>
	<p>講義概要 言語心理学の二大下位領域である言語獲得と言語理解（統語解析）の古典を現代的視点から批判的に読み解き、各下位領域の現状と今後の課題について展望します。 言語獲得については、Carol Chomsky. 1969. <i>The acquisition of syntax in children from 5 to 10</i>. MIT Press、言語理解については、John Kimball. “Seven principles of surface structure parsing in natural language.” <i>Cognition</i> 2, 1, 15-47 を取り上げます。</p>
	<p>テキスト・参考文献 上記文献を含め、必要に応じて配布する。</p>
水曜日	<p>この課目で前提とされ 生成文法、言語心理学の予備知識は必要としません。</p>

	る知識など	
	プロフィール	明海大学外国語学部教授、慶應義塾大学名誉教授。 日本認知科学会フェロー。言語の認知科学（生成文法、言語心理学）、メタ言語能力を基盤とする言語教育。Ph.D. (MIT)。最近の著作に、今西典子・大津由紀雄. 2017. 「時間表現の発達---時間の言語化にみられる普遍性と多様性の観点からの考察」 <i>Brain and Nerve</i> 69(11) 1251-1271、大津由紀雄. 2016. 「ことばについて知ることの大切さ」『日本語学』35(2) 2-12、大津由紀雄. 2015. 「ことばの認知科学」 <i>Clinical Neuroscience</i> 38(3) 877-881 などがある。
水曜日	ことばの研究、はじめの一步。 言語学概論	長屋 尚典（ながや・なおのり） 東京大学准教授 【言語学概論】
	講義概要	この講義は、言語学の諸分野を広く、できるだけ深く学ぶことを目的とします。音声学・音韻論から形態統語論、意味論・語用論、社会言語学、言語類型論に至るまで、毎回一分野を取り上げて講義します。様々な言語の練習問題を解きつつ、参考文献も参照しながら、楽しく勉強していきましょう。講義全体を通して、言葉を理解するには言葉の一部分・一側面を取り出して分析しただけでは不十分であり、いろいろな側面から全体を考えて初めて本当に分かるということを伝えたいと考えています。 今のところの予定 1. 言語学の諸分野とカテゴリー化 2. 音声学 3. 音韻論 4. 形態論 5. 統語論（前半） 6. 統語論（後半） 7. 意味論・語用論（前半） 8. 意味論・語用論（後半） 9. 社会言語学 10. 言語類型論
	テキスト・参考文献	テキスト：ハンドアウトを配布します。 参考文献：適宜紹介しますが、窪菌晴夫編『よくわかる言語学』（ミネルヴァ書房、2019）をまずはおすすめします。
	この課目で前提とされる知識など	概論なので言葉に対する興味があれば十分です。言語学を全く勉強したことのない人から、大学院受験のために言語学の諸分野を復習したい、言語教育に活かしたいという人まで歓迎します。
	プロフィール	東京大学大学院人文社会系研究科・准教授 PhD in Linguistics (Rice University, 2011)

		オーストロネシア諸語、フィールド言語学、言語類型論 主要著作・論文:「意図と知識—タガログ語の ma-動詞の分析—」(2019,『認知言語学を拓く』), “Focus and prosody in Tagalog” (2018, Hyun Kyung Hwang との共著, <i>Perspectives on Information Structure in Austronesian languages</i>)
木曜日	生成文法理論を通して言語を考える 生成文法 I 高橋 将一 (たかはし・しょういち) 青山学院大学准教授【生成文法】 内容は通年講座(12頁)を参照。	
	「なぜ」を問うところから理論的思索が始まる。 日本語文法理論 尾上 圭介 (おのえ・けいすけ) 東京大学名誉教授【日本語文法理論】 内容は通年講座(12頁)を参照。	
金曜日	静態的・出力說的な文法観に対する動態的・過程說的な文法観の必要性を示す。 文法原論 梶田 優 (かじた・まさる) 上智大学名誉教授【言語学特殊研究】内容は通年講座(13頁)を参照。	
	ことばの中と外をつなぐ 語用論の基礎	酒井 智宏 (さかい・ともひろ) 早稲田大学教授 【語用論】
	講義概要	語用論とはその名の通り「言語」の存在を前提としてその「使用」を扱う分野です。しかし、言語体系とその使用とのあいだに必ずしも明確な境界線が引けるわけではありません。たとえば平叙文「猫はかわいい」が日本語という体系の中でもつ意味とは何でしょうか。「猫」に関して「かわいい」と述べる(主張する)こと? いや、「述べる(主張する)」というのはむしろ人間がすることではないでしょうか。だとすると、平叙文の「意味(=内容)」にはすでに「使用(=主張力)」が紛れ込んでいることとなります。講義ではこのような古くて新しい問題をじっくり掘り下げてみましょう。
	テキスト・参考文献	プリントを配布します。参考文献は、授業中に紹介します。
	この課目で前提とされる知識など	予備知識は特に必要ありません。
プロフィール	早稲田大学文学学術院教授 意味論、語用論 2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士(学術) 2004年パリ第8大学大学院言語学専攻博士課程修了、Docteur en Sciences du Langage 主要著作:『正しく書いて読むための英文法用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2019) 『最新理論言語学用語事典』(分担執筆、朝倉書店、2017)、『理論言語学史』(分担執筆、開拓社、2017)	

時間：19：00－20：40（100分）

後期 2020年9月28日～ 全10回（祝祭日の講義はありません）

月曜日	社会言語学の＜社会＞の意味を探究する 社会言語学 <p style="text-align: right;">嶋田 珠巳（しまだ・たまみ） 明海大学教授 【社会言語学】</p>	
	講義概要	今年度は「基礎からしっかりと」がテーマ。どのような背景のもとにこの分野の研究が築かれてきたのか。＜社会＞は＜言語＞とどのように関わり、それはどのような言語現象に見ることができるか。言語学理論にどのように＜社会＞を組み込むことが可能なのか。講義では、社会言語学全体を見渡してこの学問領域の特徴をつかみます。深入りするのは、言語接触、言語変化、社会言語学の理論と実践。すべてにおいて、言語知識と言語使用が考える要になります。初めての方から研究の領域に足を踏み込んでいる方までを想定して、「話者の見える言語学」としての社会言語学の魅力に誘います。
	テキスト・参考文献	教科書は使わず、ハンドアウトを配布します。参考文献は適宜紹介します。
	この課目で前提とされる知識など	特にありません。教室でのディスカッションがあらたな知のきっかけになるかもしれません。
	プロフィール	明海大学外国語学部教授。社会言語学、言語接触、アイルランド英語。2007年京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻言語学専修博士後期課程修了。博士（文学）。著書に、『英語という選択-アイルランドの今』（岩波書店 2016年）、 <i>English in Ireland: Beyond Similarities</i> （溪水社 2010年）、共編著に『言語接触-英語化する日本語から考える「言語とはなにか」』（東京大学出版会 2019年）など。主な論文として“Speakers’ awareness and the use of <i>do be</i> vs. <i>be after</i> in Hiberno-English”, <i>World Englishes</i> 35, 2016年。
月曜日	Langacker の認知文法を用いて具体的な現象の分析する 認知言語学 I — 認知文法の基礎 <p style="text-align: right;">西村 義樹（にしむら・よしき） 東京大学教授 【認知言語学入門】</p>	
	講義概要	今年度は、Ronald W. Langacker の認知文法 (cognitive grammar) の基本に立ち戻って、この理論を含む認知言語学がそもそもどういう意味で「認知」的なのか、この理論が言語表現の意味をその言語表現と結びつけた conceptualization であると考えるのはなぜか、この理論が symbolic view of grammar という文法観を重視するのはなぜか、そのような文法観を採用する根拠は何か、そのような文法観によってどのような現象のどのような分析が可能になるのか、この理論は語彙と文法がど

	<p>のような関係にあると考えているのか、等の問いに取り組んでみたいと思います。認知文法による具体的な現象（例えば日英語の受身）の分析を比較的詳しく紹介することによって、この理論の切れ味を示せるようにしたいと考えています。</p>
テキスト・参考文献	<p>講義で用いる文献のコピーはこちらで準備します。参考文献は講義中に適宜紹介します。</p>
この課目で前提とされる知識など	<p>（認知文法を含む）認知言語学についての知識は前提としませんが、受講前に西村義樹・野矢茂樹著『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』（中央公論新社）を通読されることをお勧めします。</p>
プロフィール	<p>東京大学文学部（言語学研究室）教授 専門は認知言語学、意味論、日英語対照研究。 1989年東京大学大学院人文科学研究科博士課程（英語英米文学専攻）中退。 『構文と事象構造』（共著、研究社、1998）、『認知言語学Ⅰ：事象構造』（編著、東京大学出版会、2002）、『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』（共著、中公新書、2013）、『明解言語学辞典』（共編著、三省堂、2015）、『日英対照 文法と語彙への統合的アプローチ：生成文法・認知言語学と日本語学』（共編著、開拓社、2016）、『メンタル・コーパス：母語話者の頭の中には何があるのか』（共編訳、くろしお出版、2017）、『認知文法論Ⅰ』（編著、大修館書店、2018）、『認知言語学を拓く』、『認知言語学を紡ぐ』（いずれも共編著、くろしお出版、2019）など。</p>
火曜日	<p>幼児による第一言語獲得についての諸問題を検討します。 第一言語獲得</p> <p style="text-align: right;">佐野哲也（さの・てつや） 明治学院大学文学部英文学科教授 【言語心理学】</p>
講義概要	<p>ヒトが第一言語を容易に獲得できるのはなぜかという疑問について、それは生まれつきの能力によって助けられているからだという答えが考えられます。このような問いを中心に、この講義では第一言語獲得についての諸問題をあつかいます。</p> <p>最初に、生成文法理論を基礎として、幼児の言語能力を生まれつきのものとそうでないものに分けて考えることを中心に入門的解説をします。そのあとで、幼児による英語・日本語の獲得についての研究の代表的なものを紹介し、実際の研究例のなかで生まれつきの能力がどのようなかたちで研究されているかをみていきます。これらの講義をとおして、幼児言語の分析の基本的な考え方を解説し、ヒトが第一言語を容易に獲得できるのはなぜかという疑問について、幼児言語をとおしてどのような研究ができるかを考えていきます。</p>
テキスト・参考文献	<p>教科書は特に使用せず、スライドをもちいて講義します。</p>

	この課目で前提とされる知識など	特にありません。専門的知識を前提とせず、基本からわかりやすく解説します。
	プロフィール	<p>明治学院大学文学部英文学科教授 言語獲得</p> <p>University of California, Los Angeles, Ph.D. in Linguistics</p> <p>主要著作：“Remarks on theoretical accounts of Japanese children’s passive acquisition,” in <i>Generative Linguistics and Acquisition: Studies in Honor of Nina M. Hyams, John Benjamins, 2013.</i> など</p>
	『「する」と「なる」の言語学』再訪 認知言語学Ⅱ	池上 嘉彦（いけがみ・よしひこ）昭和女子大学名誉教授 【認知言語学】内容は通年講座(11頁)を参照。
水曜日	言語に関連するテーマを多角的に取り上げる 言語学入門	<p>大津 由紀雄（おおつ・ゆきお） 明海大学教授・慶應義塾大学名誉教授</p> <p>【言語学入門】</p>
	講義概要	<p>言語学についての簡単な総説的講義（たとえば、音声学と音韻論はどう違うのか）に引き続き、言語学に関連するいくつかの話題を取り上げて、解説します。取り上げる予定の話題は「言語とその獲得」「言語と人工知能」「言語と教育」です。このコースの目的は受講者に言語学のおもしろさとその重要性を感じ取ってもらうことにあります。基本的に講義形式をとりますが、できるだけ演習的要素も取り入れたいと思っています。</p>
	テキスト・参考文献	必要に応じて配布します。参考文献は、授業中に紹介します。
	この課目で前提とされる知識など	予備知識は必要ありません。
	プロフィール	<p>明海大学外国語学部教授、慶應義塾大学名誉教授。</p> <p>日本認知科学会フェロー。言語の認知科学（生成文法、言語心理学）、メタ言語能力を基盤とする言語教育。Ph. D. (MIT)。最近の著作に、今西典子・大津由紀雄. 2017. 「時間表現の発達---時間の言語化にみられる普遍性と多様性の観点からの考察」<i>Brain and Nerve</i> 69(11) 1251-1271、大津由紀雄. 2016. 「ことばについて知ることの大切さ」『日本語学』35(2) 2-12、大津由紀雄. 2015. 「ことばの認知科学」<i>Clinical Neuroscience</i> 38(3) 877-881 などがある。</p>

水曜日		<p>語の文法を解き明かす -- 「ギャン泣き」「食べたみ」はどうやって造られる？ 形態論・語形成論 杉岡 洋子 (すぎおか・ようこ) 慶應義塾大学教授 【形態論・語形成論】</p>
	講義概要	<p>言語は特定の形によってある意味を伝えるものですが、その「形」の最小単位は「語」です。講義では、形態論の基礎的な概念を説明した上で、複合語「歩きスマホ」「ギャン泣き」や派生語「ばえる」「食べたみ」などを造り出す語形成について、形と意味の規則性と例外をどう説明できるか、言語間の違いなどを学びます。そして、レキシコン(=頭の中の辞書)についての理論的な知見も活用しながら、語という単位に潜む豊かな文法と意味を解き明かします。主要なトピックには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語という単位の独立性はあるのか(「甘酒」は「甘い酒」にあらず) ・語の構造は句や文の構造とどう違うのか(「もの忘れ」と「忘れもの」) ・語形成の生産性と心内辞書の関係(「食べたみ」のインパクト) ・品詞の意味カテゴリーとプロトタイプ(「元気な」と「?病気な」) ・品詞を転換する派生接辞の意味と機能(「?食べるがない」) ・レキシコンと意味の生成(「ボトルを飲んで捨てる」の多義) ・動詞の意味のしくみ(「死んでいる」とdyingの違い) ・複合語の多様性(「ギャン泣き」「インスタ映え」「歩きスマホ」) <p>講義が一方通行にならないように、質問やコメントを歓迎します。また、課題について議論する機会も設ける予定なので、積極的に参加して自分で言語データを集めて分析する楽しみも味わってください。</p>
	テキスト・参考文献	<p>テキスト：プリントを配布します。 参考文献：窪菌晴夫編『よくわかる言語学』(ミネルヴァ書房, 2019) 他, 必要に応じて文献を紹介します。</p>
	この課目で前提とされる知識など	<p>専門的な予備知識は特に必要ありません。</p>
	プロフィール	<p>慶應義塾大学 経済学部教授(英語・言語学) 2020年4月より同大学名誉教授。 シカゴ大学大学院言語学科博士課程修了(Ph. D.) 語形成や語彙意味論, 形態論と統語論の関係, 語の処理に関わる心や脳のしくみを研究しています。 『語の仕組みと語形成』(共著、研究社、2002)、『名詞の意味と構文』(分担執筆、大修館、2011)、「語の処理の心的・脳内メカニズム」(共著、『形態論』、朝倉書店、2016)、「形態論・語形成」(『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房、2019)など。</p>
木曜日		<p>生成文法理論を通して言語を考える 生成文法 I 高橋 将一 (たかはし・しょういち) 青山学院大学准教授【生成文法】内容は通年講座(12頁)を参照。 「なぜ」を問うところから理論的思索が始まる</p>

	日本語文法理論 尾上 圭介 (おのえ・けいすけ 東京大学名誉教授【日本語文法理論】内容は通年講座(12頁)を参照。
金曜日	<p>静態的・出力説的な文法観に対する動態的・過程説的な文法観の必要性を示す 文法原論 梶田 優 (かじた・まさる) 上智大学名誉教授【言語学特殊研究】内容は通年講座(13頁)を参照。</p> <p>スクリプトを使いこなし音声学を学ぶ 実験音声学 北原 真冬 (きたはら・まふゆ) 上智大学外国語学部教授 【音声学】</p>
講義概要	音声分析ソフトウェア Praat を用いて、実験音声学の基本を身につけ、自ら実験をデザインし、それを実施できるようになることを目指します。ノートPCとヘッドホンを持ち込んでいただくことが必須となります。産出と知覚の双方について様々な実験デザインの基本形を示し、それを実行・解析するために必要なスクリプトプログラミングの仕方を基礎から丁寧にお伝えします。
テキスト・参考文献	<p>テキスト: 北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳(2017)「音声学を学ぶ人のための Praat 入門」ひつじ書房</p> <p>参考文献: 授業の中で適宜・紹介します</p>
この課目で前提とされる知識など	PCの基本的な使い方(拡張子を表示できることや全角スペースを駆逐できること)
プロフィール	上智大学外国語学部教授。上智大学国際言語情報研究所音声学研究室長。専門は音声学・音韻論・認知科学。1997年京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士課程中退。2001年インディアナ大学大学院博士課程修了。joint Ph.D. in Linguistics & Cognitive Science。著書は本講座のテキスト。

通年講座 (前期と後期でセットの講座)

時間：19:00-20:40 (100分)

前期 2020年5月11日～ 全10回

後期 2020年9月28日～ 全10回 (祝祭日の講義はありません)

<p>火曜日</p>	<p>『「する」と「なる」の言語学』再訪 認知言語学Ⅱ</p> <p style="text-align: right;">池上 嘉彦 (いけがみ・よしひこ) 東京大学名誉教授、昭和女子大学名誉教授 【認知言語学】</p>
<p>講義概要</p>	<p>外国語と多かれ少なかれ苦勞してつき合った経験のある人なら、誰しもその反面、いつの間にか自然と身につけてしまった自分の母語とは一体どういう言語なのかと改めて考えてみたくなるはずです。『「する」と「なる」の言語学』と題された書物(大修館書店、1981)も、そのような問いかけから生まれたもの—エッセイ風の考察と言語学的な論考との中間あたりを念頭に置いての著作でした。変形文法一色に染まっていた時期には異端的な存在と見做されていたらしいですが、今では認知的な先駆的試みと受けとめられているようです。本年度は、この書物の成立といくつかの論点を現時点から見た形で紹介させていただき、その上で聴講者の方々にもみずからの言語感覚に同じ問いかけをしてみてくださいと思います。</p>
<p>テキスト・参考文献</p>	<p>現時点では、上記書物の言語学的側面だけを一般読者向きにまとめた「表現構造の比較—<スル>的な言語と<ナル>的な言語」(国広哲弥編『日英語比較講座・第4巻・発想と表現』(pp. 82-110) 研究社、1982)をコピーで共有させていただき、必要に応じて上記文献やその他多くの関連文献からの引用をハンドアウトとして配布する予定。</p>
<p>この課目で前提とされる知識など</p>	<p>日本語母語話者でなくても、日本語に特別な関心があり、そして(当然ですが)ある程度の習熟度のある人なら、歓迎です。なお、このウェブ版の記述とリンクして『「する」と「なる」の言語学』の「あとがき」(pp. 298-301)が掲載されていますので、出席を考慮している人にはぜひ読んでおいて下さい。認知言語学については、専門的な知識は必要なく、言語への深い関心があれば十分です。なお、上記大修館書店からの書物の要約的な英語の論考は、“‘DO-language’ and ‘BECOME-language’: Two Contrasting Types of Linguistic Representation”, Y. Ikegami, ed.: <i>Empire of Signs: Semiotic Essays on Japanese Culture</i> (Amsterdam: John Benjamins, 1991), pp. 285-326に収録。書物全体のドイツ語訳として、V. Eschbach-Szabo et al. 訳, <i>Sprachwissenschaft des Tuns und Werdens: Typologie der japanischen Sprache und Kultur</i>, Berlin: LIT Verlag, 2007があります。</p>
<p>プロフィール</p>	<p>東京大学名誉教授、日本認知言語学会名誉会長 東京大学で英語英文学(B.A., M.A.)、Yale 大学大学院で言語学(M.Phil., Ph.D.)を</p>

		<p>専攻。インディアナ大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学、チュービンゲン大学、北京日本学研究中心、などで客員教授、ハンブルク大学、ロンドン大学、などで客員研究員。</p> <p>著書：『英詩の文法』、『意味論』、『「する」と「なる」の言語学』、『ことばの詩学』、『詩学と文化記号論』、『記号論への招待』、『＜英文法＞を考える』、『日本語と日本語論』、『自然と文化の記号論』、『英語の感覚・日本語の感覚』など。</p>
木曜日	<p>生成文法理論を通して言語を考える</p> <p>生成文法 I (入門)</p> <p style="text-align: right;">高橋 将一 (たかはし・しょういち) 青山学院大学准教授 【生成文法】</p>	
	講義概要	<p>本講義では、下記のテキストを使用し、生成文法理論を基礎から学びます。生成文法理論における言語に対するアプローチ、分析方法、基本的概念、理論的道具立て、理論の構築方法などを取り上げていきます。また、テキスト内のエクササイズや自作の問題を解くことで、具体的な言語現象を実際に分析していきます。テキストの内容以外にも、受講者の興味・関心を考慮に入れ、なるべく幅広く言語現象を取り上げていきたいと思っています。</p>
	テキスト・参考文献	<p>Freidin, Robert. 2012. <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i>. Cambridge University Press.</p>
	この課目で前提とされる知識など	<p>言語学や生成文法理論についての知識がなくてもご理解いただけるように講義を行います。</p>
	プロフィール	<p>青山学院大学文学部英米文学科准教授</p> <p>統語論、意味論、統語論と意味論のインターフェイス</p> <p>2006年マサチューセッツ工科大学大学院博士課程言語学・哲学科修了、Ph. D.</p> <p>主要論文：The hidden side of clausal complements. <i>Natural Language & Linguistic Theory</i> 28:343-380、More than two quantifiers. <i>Natural Language Semantics</i> 14:57-101 など。</p>
木曜日	<p>「なぜ」を問うところから理論的思索が始まる。</p> <p>日本語文法理論</p> <p style="text-align: right;">尾上 圭介 (おのえ・けいすけ) 東京大学名誉教授 【日本語文法理論】</p>	
	講義概要	<p>○肯定文と否定文で「ハ」と「ガ」をめぐる非対称性がある（「2月に雪が降る」vs「2月に雪は降らない」）のは何故か。 ○主語表示において「～ハ」の方が圧倒的に自然な文（形容詞文）と「～ガ」でも自然な文（動詞文）とがある。何故か。 ○モノの存在を語る文では存在物が主語として現れる言語（日本語など）と目的語として現れる言語（中国語など）とがある。何故か。そもそも主語とは何か。意味の問題か、統語の問題か、それとも？ ○文に主語と述語があるのは何故か。 ○動詞シヨウ形に推量でも意志でもない用法（「あろうはずもない奇跡を…」 「校長</p>

		<p>先生ともあろう人が…」がある。何故か。推量という意味はシヨウ形という形態自身に内在しているのか、それとも？ ○「あろうか？」という疑問文述語はありうるのに「あるかもしれないか？」という形はありにくい。何故か。 ○運動の進行中を表すテイル（「鳥が飛んでいる」）と運動の既実現や実現結果の状態を表すテイル（「とっくに気がついている」「ガラスが割れている」。パーフェクト用法と呼ばれる）がシテイル形という同一形式で実現されるのは何故か。（そんな外国語は聞いたことがない。） ○何語でも、述語にはテンスとモダリティがある。何故か。○平叙文も疑問文も感嘆文も命令文も、すべて文であると言えるのは何故か。○文であるとは、言語行動の問題か、意味の問題か。 ○いわゆる受身文では、動作的事態であるのに（動作対象項など）動作主以外のものが事態認識の中核（それが主語の本質）に立てられる。それは何故か。受身文とはそういうものだけでは答えにならない。 ○可能の文や自発の文でも動作主以外の項が主語になる。それは何故か。</p> <p>——「そういうものだ」で済まさないで、「何故」を問うところから文法の理論的思索が始まります。</p>
	参考図書	必要な文献は、授業の中で紹介し、配布します。
	前提とされる知識など	特に必要ありません
	プロフィール	<p>大阪市生まれ。東京大学大学院修士課程修了。国語学。専攻は文法論、意味論、および「大阪のことばと文化」。日本笑い学会理事。</p> <p>著書に『文法と意味Ⅰ』（くろしお出版、2001）、『大阪ことば学』（岩波現代文庫、2010）、『朝倉日本語講座第6巻（文法Ⅱ）』（編著、朝倉書店2004）、日本語文法学会編『日本語文法事典』（共編、大修館書店2014）。</p>
金曜日	文法原論	<p>静態的・出力説的な文法観に対する動態的・過程説的な文法観の必要性を示す。</p> <p style="text-align: right;">梶田 優（かじた・まさる） 上智大学名誉教授 【言語学特殊研究】</p>
	講義概要	<p>最近数年間の理論言語学研究の実質的な部分を整理、吸収しつつ、動的文法理論の構築を進める。（1）品詞、機能範疇、構文などの多様性と画一性、（2）述語構造・論理構造・情報構造・発話行為の四者の統語形式への写像における相互作用、（3）表現手段の線状性の文法への影響、等々を体系的に説明するためには、現行の静態的・出力説的な言語理論では不十分で、動態的・過程説的な視点が必要になることを示す。個別言語研究、言語類型論、通時言語学、言語心理学などから資料を採る。神経科学、発生生物学、比較動物学、言語進化論などの成果を援用する。（春期講座で動的文法観の基本を説明する。）</p>
	テキスト・参考文献	参考文献については講義中に紹介する。
	この課目で前提とされ	授業は講義形式。「生成文法入門」程度の予備知識が望ましいが、トピックごとに基礎を簡単に復習してから話を進めるので、入門未修者も（面接ガイダンスのう

る知識など	え) 受講可。
プロフィール	上智大学名誉教授 英語学、言語学 1967年プリンストン大学 Ph. D. (言語学)。東京教育大学、東京学芸大学、上智大学で英語学、言語学を担当。『文法論Ⅱ』(共著、大修館、1974)、「生成文法の思考法(1)-(48)」(『英語青年』, 研究社、1977-1981)など。

理論言語学講座夏期集中

期間：言語哲学入門 2020年8月14日(金)～16日(日)

時間：1日目 10:00-17:00 2日目 10:00-17:00 3日目 10:00-17:10

日本語文法と一般言語理論 2020年8月21日(金)～23日(日)

時間：1日目 13:00-18:30 2日目 10:00-18:10 3日目 10:00-16:10

8月14日(金)～16日(日)	言葉が何かを意味するとはどういうことなのだろうか 言語哲学入門 野矢 茂樹 (のや・しげき) 立正大学教授 【言語学特殊講義】
講義概要	言葉について哲学します。そもそも哲学するとはどういうことかを説き起こすところから始めましょう。現代の言語哲学の祖とも言うべき哲学者はフレーゲです。この講義ではまず伝統的考え方(意味の観念説)を示して、その伝統的考え方への批判を踏まえて、フレーゲの考え方を見ていきます。そしてそこからさらに、フレーゲ的な考え方を越える考え方を見ていきます。とても煩瑣な議論が展開される現代の言語哲学ですが、この講義ではあまり細かく複雑な議論には立ち入りません。そのかわり、言葉を哲学するときの考え方の根っこに触れることができるのではないのでしょうか。以下、目次を示しておきます。 はじめに 第Ⅰ部 フレーゲ以前 1 意味の指示対象説 2 「犬」の意味は何か 3 意味の観念説 4 観念説を批判する 第Ⅱ部 フレーゲ的な考え方 5 「犬」を「xは犬だ」という関数として捉える 6 文脈原理 7 文脈原理と合成原理 8 構文論的構造 9 外延と内包 10 指示と述定 第Ⅲ部 フレーゲ以後 11 古典的概念観と新しい概念観 12 記号的言語観とコミュニケーション的言語観 13 言語行為論 14 文の意味と発話の意味 15 発話の意味を決めるのは意図か慣習か? 16 会話の理論 — 会話の含み — 17 記号的言語観とコミュニケーション的言語観を統合する 18 言語変化と隠喩 b. 予備知識は必要ありません。 c. 専門は哲学。 e. 言葉が何かを意味するとはどういうことなのだろうか

	テキスト・参考文献	適宜プリントを配布します。
	この課目で前提とされる知識など	予備知識は必要ありません。
	プロフィール	立正大学哲学科教授。専門は哲学。 東京大学大学院理学系研究科科学基礎論専門課程博士課程単位取得退学。北海道大学助教授、東京大学大学院総合文化研究科教授をへて、現在立正大学教授。 著作に『増補版 大人のための国語ゼミ』（筑摩書房）、『言語学の教室』（西村義樹と共著、中公新書）、『哲学の謎』（講談社現代文庫）、『はじめて考えるときのように』（PHP文庫）、『ここにはないもの』（中公文庫）、『心という難問 空間・身体・意味』（講談社）など。
8月21日（金）～ 8月23日（日）	日本語の具体的な言語事実の観察，記述から，理論的な説明へ 日本語文法と一般言語理論	三宅 知宏（みやけ・ともひろ） 大阪大学教授 【言語学特殊講義】
	講義概要	本講義は、普遍的な一般言語理論を視野に入れながら、個別言語としての日本語について、特に「文法」（形態論，統語論，意味論，語用論との接点を含む）の分野を中心に議論します。今年度は、日本語において「文法構文」を形成していると考えられる言語現象を複数，観察することを通して，日本語の文法の基礎的事項とその理論的展開について検討する予定です。なお，本講義は日本語の「文法」に関して，①一般言語理論研究を行う上での基礎的な知識を得たい方，②専門的な日本語研究を進める上での知識を得たい方，③日本語教育を行う上での知識を得たい方，④日本語（言語）に知的興味がある方，を対象としています。
	テキスト・参考文献	適宜プリントを配布します。
	この課目で前提とされる知識など	本講義は，受講にあたっての特別な知識は必要としません。一昨年度，昨年度に引き続きの開講になりますが，講義の内容は異なりますので，今年度はじめての受講，一昨年度／昨年度から連続の受講のいずれでも，問題はありません。
	プロフィール	日本語学・言語学 大阪大学大学院文学研究科 教授 1997年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士（文学）。 『日本語研究のインターフェイス』（くろしお出版 2011），『日本語と他言語』（神奈川新聞社 2007），『語彙論的統語論の新展開』（共編著 くろしお出版 2017）等。